

第 58 回 建築士会全国大会 石川大会 参加報告

10月29日(木)、釧路空港10時25分発の飛行機に6名(五十音順で、香川 博、金子 ゆかり、下元 英徳、鈴木 要、須藤志津子、山崎 景子)が乗り込み、小松空港へ出発。羽田空港から小松空港への乗り継ぎの関係で金沢市の宿泊地についてのが、午後6時30分。その夜のお酒がとっても効きました。10月30日(金)は、今回の第1の目的である交流セッション、大会式典、大交流会です。その前に建築的にも有名なJR金沢駅での記念写真。「もてなしドーム」と「鼓門(つづみもん)」が我々を出迎えてくれました。



交流セッションは、石川県立音楽堂 2 階の邦楽

ホールで 9 時 30 分に始まり、12 時で終了。昼食は金沢市の超有名な人気スポット「ひがし茶屋街」にある懐石料理で有名な「十月亭」。「ひがし茶屋街」は美しい出格子がある古い街並みが今



でも残っていて、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、「街並みの文化財」として保存策が進められています。街全体にゆっくりとした時間が過ぎているみたいでした。



大会式典は、15時より「百万石の地で触れよう 未来につなぐ まちづくり」をテーマに4千名程が参加して開催されました。式典では、照田繁隆石川県建築士会長、三井所清典日本建築士会連合会長のあいさつ、谷本正憲知事、山野之義金沢市長らの祝辞が述べられ、全金沢市長の山出保県中小企業団体中央会長の講演、各賞の表彰式、大会アピール等も行われ、次回の大分県建築士会との大会旗引き継ぎ、井上正文大分県建築士会長の挨拶を最後に滞りなく終了しました。



大交流会は、会場をANAクラウンプラザホテルに移して、17時より開催されましたが、会場があまり広くなかったため、我々は、ロビーで会食。当日は、加賀百万石の伝統芸能のひとつで、格調高く、美しく華麗で、技術も高いことから、全国でもトップレベルの芸能といわれている金沢素囃子(かなざわすばやし)の演奏や、芸妓衆による日本舞踊が披露されました。ほんの少しでしたが金沢の夜を満喫。18時30分にお開きになりました。

10月31日(土)の地域交流見学会(エクスカーション)は、白川郷と飛騨高山。午前8時30分発の観光バスで金沢駅を出発し、最初の訪問地は白川郷。

白川郷は、五箇山(相倉地区、菅沼地区)と共に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として、ユネスコの世界遺産(文化

遺産)に登録された白川郷には、築100年~300年くらいの合掌造りの家屋が今も100棟以上が残っていて、約半分には人が住んでいるそうです。ちなみに地区の人口は600人程。この小さな村に年間約40万人もの観光客が訪れているそうです。



合掌造りの小屋組みは、釘などを使わず木を縄や天然素材等で組み合わせた造りになっているようで、茅葺きの屋根も裏側にある柱に紐で縫い付けて固定されていました。茅葺屋根の吹き替えは、30年~40年毎に行われています。茅葺屋根の葺き替えや補修作業では、結(ゆい)と呼ばれる地域住民による共同作業で行われています。

白川郷には、有名な手打ちそばの店があると聞いていたので、昼食まで少し時間はありましたが、おやつ代わりということで「手打ちそば処乃むら」という店でそばを食べました。注文したのは、定番のもりそばでしたが、とても力を入れて作っている

感じがしました。こしがあり、タレも含めてとてもおいしかったです。



次の訪問地は飛騨の小京都「高山」です。高山市は、市町村面積で全国一番ですが、山林が市域の92%あまりを占めているため可住面積は限られています。人口は約9万人。

飛騨高山の見どころといえば、江戸時代の商家の街並みとして優れた景観をとどめており、重要



伝統的建造物群保存地区にも選定されている三町(一乃町、二乃町、三乃町)です。のんびり散歩したり、きになるお土産がある店をのぞいたり、食べ歩きをしたりするなど、たくさんの観光客はいますが、皆それぞれゆったりとした時間をすごしていました。観光地でありながら、とても気持ちの落ち着ける街並みでした。また、地元の酒蔵も沢山あるため、酒屋では利き酒をしながら買い物ができる等、超お勧めです。当然ですが、蔵元で

なければ手に入らない「鬼ころし」を、飛騨自慢鬼ころし蔵元「老田酒造店」で購入しました。ちなみに「鬼ころし」は、辛口酒の代名詞といわれているお酒で、この店が元祖だそうです。



高山を午後2時30分に出発し、午後5時に金沢駅に帰着。とても楽しい一日でした。

11月1日(日)は小松空港9時40分発の飛行機に乗り、釧路空港には14時20分に無事到着。

参加された皆さん、ご苦労様でした。